ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌

123 号
2016 年 3 月 10 日発行号

2016 年、本年もよろしくお願いします！！

昨年は、40 周年記念企画、「冒険学校のあゆみ」の発刊と、いろいろ区切りとなる行事を行うことができました。今年は地に足の着いたまったりとした 1 年になるのかな、と。繰り返すうちに、創設 50 年が目の前に迫ってくるのだと思います。

■ 活動報告 ■

その 1 冒険学校「まふゆのキャンプ」報告 2015. 12.26～28

零下 10℃の中、まふゆのキャンプを開催しました。この時期のキャンプ場は日陰になりますのでたき火は欠かせません。皆で暖を取りつつ、たくさんのプログラムを行いました！！

河原から薪を拾い集めます。

ヤマメの稚魚の放流をお手伝いしました。

小菅村の加藤源久さんが講師で、野鳥観察会。

最終日、この後は小菅の湯です～。

今回はページ数が過去最大かもしれん！！

「第 11 期ちえのわ農学校」　報告と新年度の募集内容です。

「サークルちえのわ」は東京学芸大学の学生サークルです。大学内にある農園を借りて、「ちえのわ農学校」と題して毎月 1 回地域の子どもたち（最初に年間参加募集してます）と食農体験活動を行っています。また INCH のキャンプにもスタッフとして参加させていただいてもいます。今回この場をお借りして「ちえのわ農学校」のご紹介と来年度(第 12 期)の参加者の募集をさせていただきたいと思います。

【ちえのわ農学校とは】

ちえのわ農学校は、次の 3 つの“わ„を理念に、4 月から翌年 1 月までの毎月 1 回(全 10 回)活動を行っています。

＊自然のわ：自然の様々な表情と向き合いながら、「種から胃袋まで」の道のりを実践することで、命・自然とのつながりを五感で感じるきっかけづくりをする。
＊人のわ：農学校だからこそできる体験を通じて子どもたちが仲間とのつながりを感じられるきっかけづくりをする。
＊知恵のわ：昔ながらの知恵や文化にふれ、身近なものを見つめなおすきっかけづくりをする。

ちえのわ農学校では、お米作りや野菜の栽培を中心に様々な自然文化体験を行っています。第 11 期となる今年度（平成 27 年度）は以下のようなことをしました。

第 1 回(4 月 18 日)

スタッフや他の友達との初対面。でもアイスブレーキングや農園散策をするうちに緊張がほぐれて、帰る頃にはみんな笑顔でした。畑の活動では自分の育てる野菜を決め、種をまきました。どのように野菜を育てたらいいのかスタッフと相談して収穫までの目標も立てました。

第 2 回(5 月 23 日)

5 月はみんなで田植えをしました。田んぼに 1 列に並んで、みんなで順番に「ちえのわ米」の苗を植えていきます。はじめは泥のぬかるんだ感触が気持ち悪いけど、みんなで植えていくうちにだんだん楽しくなってみんな笑顔で田植えができました。また、「ちえのわ米」には、うるち米ともち米があり違いを確かめることもできました。

第 3 回(6 月 13 日)

5 月の活動で田植えをした田んぼには生き物がたくさん!ということで田んぼの生き物観察を行いました。生き物といっても昆虫など動いている生物だけではなく動かない植物などにも目を向けて観察できました。午後には野菜の場所の目印として各自で畑の野菜プレートを作りました。「ここが自分たちの畑」感が強くなったとともに、より一層育てている野菜への愛着をもつことができたのではないでしょうか。

第 4 回(7 月 11 日)

7 月は竹を使って風鈴や水鉄砲、万華鏡、竹笛を作りました。のこぎりで竹を使いやすい大きさに切ったり、錐で穴をあけたり、それぞれが試行錯誤しながら工作しました。お昼には流しそうめんを食べました。暑さを忘れて、流れてくるそうめんを口いっぱいに頬張っていました。
自分で作った水鉄砲を使って水遊びもして元気に農園を駆け回りました。

第 5 回(8 月 22・23 日)

8 月はキャンプ！農園にテントを張ってみんなで 1 泊します。企画も盛りだくさん。
まずはヤマメさばき。生きたヤマメを自分の手でさばいて焼いて食べることを通して、命の大切さやつなが

り、そして命をいただくということを学びました。
次は今日寝る場所を確保するために一緒に寝る友達とテントを協力してたてました。テントを立てた後は待ちに待った夏野菜の収穫。トマトやナスやかぼちゃ、たくさんの野菜を収穫することができました。

午後からは自由時間、田んぼの手入れのために雑草を刈ったり、イナゴを捕まえたり、ドロケイをして夏の農園を満喫しました。

夕食も自分たちで作りました。昼間に収穫した野菜を使って、シンガポールカレー・ツナとトマトのカレー・焼き野菜カレーの 3 種類のカレーを作りました。調理もみんなで手分けして、協力して進めます。ちえのわで栽培・収穫した野菜を調理し食べることで、「種から胃袋まで」の道のりを達成することもできました。カレーを食べている間に日も暮れてきました。夜はナイトハイクと影絵遊びをしました。暗闇に包まれた夜の農園はいつもとまた一味違います。影絵遊びは、みんなでストーリーを考えました。子どもたちの協力し合う姿に、友情の深まりを感じました。

2 日目の朝には 1 日目に捕まえたイナゴの佃煮をみんなで食べ、再度命をいただく大切さを学びました。その後、農園の植物の葉を使って染め物をしました。葉の形の違いを生かして工夫を凝らしたり、葉によって色の出方に違いがあることを発見したりと、子どもたちひとりひとりの個性がうかがえました。

第 6 回(9 月 12 日)

9 月は冬に向けた畑の活動をしました。畑のグループに分かれて冬野菜の育て方を調べてから冬野菜の種を植えます。春に一度やっていることもあって、子どもたちの道具の使い方や種のまき方も慣れてきました。田んぼの様子も見に行きました。毎月ちょっとずつ田んぼの様子は見ていますが、今月は田んぼに網がかけられているのをすぐさま発見。これは鳥に稲穂をつつかれないようにするためで、つまり少しずつお米ができているという証拠ですね。来月が楽しみ！

第 7 回(10 月 10 日)

10 月はいよいよお米の収穫です。一人一本鎌を持って、稲を刈り取っていきます。刈り取って、数束ずつひもでしばってまとめ、そしてそれを干していきました。体は疲れているのにみんな笑顔で活動してました。刈り取られた田んぼでもいろいろな生き物が！！子どもたちは生き物を観察したり捕まえたりしていました。稲はひと月干しておいて、来月食べられるように加工します。

また 10 月は里芋の収穫をしました。里芋の葉っぱといえばトトロ！！みんなでトトロになりきりました。里芋はみんなで甘露煮にして食べました。少し肌寒い日だったのであったまりましたね。収穫と秋の味覚を堪能することができました。

第 8 回(11 月 14 日)

11 月は残念ながら天気は雨模様。収穫したお米を、食べられるように加工していきます。そう、脱穀と精米です。足踏み脱穀機と唐箕を使って脱穀し、精米は精米機の力を借りました。また穂を外した稲わらは細かく切り、肥料になるように田んぼにまきました。稲を余すところなく有効に使おうとする昔の人の知恵や工夫を感じながら活動することができました。12 月はいよいよちえのわ米がお昼ご飯に登場します。また、11 月はサツマイモの収穫をしておやつは焼き芋を食べました。

第 9 回(12 月 12 日)

12 月は、ほうき、コースター、ツリーの藁工作を行いました。ひとりひとり個性的な作品を作り、作った作品の工夫した点、感想をコメントカードに書いて藁工作でつくった作品とともに展示をし、他の友達がどのような作品を作ったのかを見てまわりました。

また 12 月はお餅つきをしました。こちらもちえのわで栽培・収穫したもち米を使いました。重い杵を持って餅をつく子どもたちの表情は、大変そうながらもとても楽しそうでした。

第 10 回(1 月 23 日)

1 月はいよいよ最終回。数日前に降った雪ので農園は一面雪で真っ白です。

まずは 1 年間を通して畑で学んだ知識のクイズをゲーム形式でしました。クイズの正解がわからない子もわかる子も楽しみながら畑の知識を復習しました。そして今度は一年間の活動を思い出しながら答えるクイズゲームをやりました。そして今度は農園全体を使って隠されている写真を探しました。写真を見て「こんなことあったね」、「懐かしいね」って思いながらふりかえりをしました。1 月農学校の最後は修了式です。1 年間の活動のスライドショーを見て、最後はみんな修了証を手に、スタッフと全員で写真を撮りました。寂しさを感じながらも、「またどこかで会いましょう」と笑顔でお別れをしました。

スタッフより

ちえのわ農学校に初めて参加してくれた子ども、11 期以前にちえのわ農学校に参加してくれたことがある子どもが半分半分でちえのわ農学校はスタートしました。初めて参加をする子どもも参加したことがある子どもも最初は緊張した表情をしていましたが、ちえのわ農学校を通して出会ったスタッフ、そしてほかの子どもたちと打ち解けていく姿がとてもうれしかったです。最後にはちえのわの活動が「楽しい」とか「来年もまた来たい」と言ってくれた子が多く、ちえのわ農学校が子どもたちにとって、自然の“わ„や人の“わ„を感じることのできる、ひとつの居場所になれたのではないかと思っています。私たちスタッフも未熟ゆえ試行錯誤の日々でしたが、その分、子どもたちとの活動を通してたくさんのことを学ばせてもらいました。1 年間ちえのわ農学校を支えてくださった皆様、そして子どもたちには感謝の気持ちでいっぱいです。

2015 年度代表　井守智大(東京学芸大学 3 回生)

【第 12 期ちえのわ農学校参加者募集】

サークルちえのわでは、来年度も参加者を募集しています！

対　　象：小学 3 年生～中学 3 年生までの 16 名(応募者多数の場合抽選)
スタッフ：東京学芸大学学生を中心に 20 名程度
場　　所：東京学芸大学　環境教育研究センターおよび彩色園
参 加 費：15,000 円(食費、保険、材料費等)
主　　催：東京学芸大学「サークルちえのわ」(http://www.gakugei-chienowa.org/)
共　　催：NPO 法人「自然文化誌研究会」(http://www2.plala.or.jp/npo-inch/)
後　　援：小金井市教育委員会

○お問い合わせ

Tel: 080-6700-3764(大窪)　　E-mail: gakugei_chienowa@yahoo.co.jp

※お問い合わせ後、詳しい資料をお送りいたします。資料をご覧の上お申し込みをお願いします。

※お申込みの締め切りは、2016 年 3 月 31 日必着。

○2016 年度　年間予定　月 1 回の土曜日（全 10 回）　10:00～16:00　（日程・内容ともに変更する可能性あり）

日程	4/16	5/21	6/11	7/9	8/20,21	9/10	10/8	11/12	12/10	1/21
活動内容	開校式、農園散策、夏野菜の種まき	田植え	かかし作り	すだれ・風鈴作り	夏野菜料理、ヤマメさばき	冬野菜種まき	稲刈り、きなこづくり	脱穀精米	もちつき、稲わら工作	修了式
夏野菜の栽培						冬野菜の栽培				
果物の調理・保存　自然を対象にしたあそびなど										

※活動内容の中で企画が未定な部分もありますが、子どもたちのやりたいことを聞きながら今後決めていきたいと考えています。また自由時間を設定し、季節ごとの農園散策やおやつ作りなど、子どもひとりひとりの、ふと持った興味を大切にして対応していきたいと考えています。

■ 第 12 回通常総会の報告 ■ 2016.2.20

本会の活動予定を中心に密度の濃い話し合いができました。今年も多くの活動を実施していきますので、皆さまのご協力、ご参加の程よろしくお願いします。

第 12 回通常総会に関しては紙面の都合上、2016 年活動予定と 2015 年決算報告のみ掲載しました。ホームページにて、第 12 回通常総会の資料の閲覧が可能です。ご承知くださいませ。

2015 年度　自然文化誌研究会の活動予定　ぜひご参加ください～！！

2016 年度　特定非営利活動法人自然文化誌研究会　事業予定書（2016 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

月日	分類	事業	場所
1/23	共催	第 11 期ちえのわ農学校最終回	学芸大環境教育センター
2/20	総会	13:00 理事会 15:00　第 11 回通常総会	小菅村
3/12-13	のびと	味噌づくりとそば打ち	小菅村
4/16	共催	第 12 期ちえのわ農学校①	学芸大環境教育センター
4/29	デイ	野草のてんぷらとお茶つみ	学芸大環境教育センター
5/3-5	冒険	むらまつりキャンプ	小菅村
5/4	PPM	植物と人々の博物館　展示解説	多摩源流まつりに合わせて
5/14	PPM	雑穀栽培講習会	小菅村
6/25-26	PPM	第 37 回環境学習セミナー	小菅村
7/28-30	野人	源流での登山道整備	甲武信小屋周辺
8/4-10	冒険	こすげ冒険学校	小菅村
8/13-15	冒険	やまめキャンプ･いわなキャンプ	小菅村
8/13-22	野人	タイ環境学習キャンプ	タイ
8/20-21	共催	ちえのわ農学校･夏の宿泊	学芸大学
9/24-25	主催	INCH まつり	小菅村
9/3-4	主催	第 38 回環境学習セミナー	小菅村
12/10-11	野人	星空観察会	小菅村
12/23-25	冒険	まふゆのキャンプ	小菅村

「タイ環境学習キャンプ」特集～はじまってから 20 年②

今回は私たちの秘密結社？「アンチャンクラブ」について、なぜ中込メ、中込ミは暗紫色のシャンプーをタイで買って帰るのか、なぜ時々紫色の花の写真を熱心に撮っているのか、なぜＪＪマーケットで、紫色の種を買っているのか、なぜ「サイチョウ」と時々タイ語の発音練習をしているのか等の謎が解ける。

ソイの奥から　２０１２

若林　卓司

▲アンチャンの花　サラダ

タイの花で私をひきつけるのは熱い光をいっぱいに受けた溢れるばかりの黄色いクーンの花だが、その可憐さにふと佇むのはアンチャンの花である。私が昔、プラナコーン教育大学で日本語を教えていた時、クラスにアンチャンという名前の女学生がいた。かわいかったのと、名前の響きが日本語的なので私はすぐに覚えた。しかし、それが花の名前だとは知らなかった。タイ人の名前には花からとったものがけっこうある。ラムドゥアン、マリ、ブンタリカー、ベンチャマース、リラワディー、サヌー等、女の人の名前である。

▲バンコク　ラームカムヘン大学　若林撮影

いつだったか、楕円状の青い花が目に付いた。花びらは一つに融合している。中心部は薄い黄色で、それを青が取り巻いているのだが、内側から外へと青が濃くなっているのだ。そこに光が当たると、青はいっそう鮮やかになった。私はかたわらのタイ人にその名を聞いた。それがアンチャンだった。アンチャンはマメ科のツル状植物で、壁などにもツタのように張り付くことができる。名前と実物が結びつくとこの花は家々の花壇にも、灌木の根元にも、生け垣やブロック塀にもよく生育していることに気がついた。花の青や中心部の薄い黄色は場所ごとに違っていた。また、素朴な一重の花もあれば二重三重のようになっているものもあった。白色の花もあった。私はうれしくなった。

何回目かのＴＪクラブの例会で、アンチャンクラブが結成された。忘れもしないナコンサワンでの結成だった。それでナコンサワンの架け橋ともいう。その愛らしさゆえの結成だったと思うが、あまり深い意味はなかったかもしれない。私が会長に選ばれて、アンチャンに関するあらゆる情報を集めることを託された。会員になるためにはアンチャンに関する飽くなき興味はもとより、「サイチョウ」、あの嘴の大きい鳥のことなのだが、そのタイ語の発音を流暢に発することが求められた。アンチャンとサイチョウ、何の関係があるのかはわからない。会員は中込と中込、ごめさんとごみさんである。結成をしてもすぐに何かをするわけではないから、会員資格を左右する発音が厳しく追及されることとなる。今日の会員は明日の準会員なのである。アンチャンクラブの会長になることは非常に名誉なことなので、二人の焦燥は計り知れないものがあっただろう。しかし、かえるを踏み潰したような声では難しいのである。けだものの声では会員の威厳と品格が保てないのである。飽くなき会員への道はその後何年にもわたって現在に及んでいる。

▲ホテルで飲んだアンチャンジュース　ひたすら甘い

アンチャンはタイでは昔から艶のある黒髪の養毛剤として利用されていた。それで、現在ではアンチャンシャンプーが発売されている。また石鹸にも用いられており、アンチャンシャンプーとアンチャン石鹸の併用は会員としての自覚をタイの最高峰インタノン山のように高めるものである。一方、アンチャンの花を水につけると青い色素が容易に溶け出す。それで、タイ菓子の色付けによく用いられる。カノム・チャンと呼ばれている長方形の薄いこんにゃくが何枚も重ねてあるようなお菓子の薄い青がそうである。また、飲料水に使われることもある。これはすっぱいマナーオと混ぜ合わせて最近二つの会社から新発売になり、是非飲まなければと、飲んでみたが、まあまあの代物だった。昔、クレッタ島へ行った時、アンチャンの花がてんぷらになっていた。是非食べなければと、食べてみたが、ナスビの方がうまいと思った。しかし、このアンチャン、ナーン・ファーというキノコとたまねぎと共に掻き揚げにし、うどんと一緒に食べるとおいしいのだ。家のベランダのアンチャンの花がいくつかまとめて咲いたら、我が家のテーブルには掻き揚げうどんが現れるのである。

▲クレット島で売っていたアンチャンの乾燥した花

ここで述べているアンチャンは鑑賞用植物であるが、タイには野生種がある。私が見たのはクラビー、チュンポーン、ナコンシタマラートとすべて南部である。アンチャンの学名はあまり感心しない。それでもこの野生種を見れば、命名者の軽率さは否めがないが、わかる気もする。けれど、私たちのアンチャンはそんなことをおくびにも思わせない、可憐さ、さわやかさに満ちている。その濃い青に見つめられると、心の底が洗われるような気がする。この花を愛でることで、人生を意味のあるものとして美しく捉えなおすことができるのだ。

▲ＪＪマーケットで買った種子

▲トランにて　（若林撮影）

▲アンチャンのシャンプーと乾燥した花
（若林さんとチナッタッタさんにいただいたもの）

昨年１２月、若林夫妻が、来日（！？）。いつもは関西だが、はじめて東京に来てくれた。うれしい。西日暮里で歓迎会。１０人ちかく集まった。若林夫妻は飲めないのに、居酒屋が会場。INCH らしい。翌日は小菅村来訪。博物館の図書館の蔵書に感動してくれた。　（中込　卓男）

■ 活動案内 ■

その１「野草の天ぷらとお茶つみの会」　4.29(デイキャンプ)

毎年恒例の「野草の天ぷらとお茶つみ」のデイキャンプをやります。普段は「葉っぱ」「雑草」として見落としがちな野草でも食べられるものがたくさんあります。野草を摘んで、天ぷらにして食べましょう。また、自分たちでお茶をつみ、蒸して、揉んで、飲みましょう。樹木医の岩谷美苗さんによる恒例の「キノコ探し」もメニューに予定しています。フランス料理の高級食材「モリーユ」が見つかるかも？
雨天決行です。友人・知人を誘ってぜひご参加下さい。

日　時　：４月 29 日（祝）　９：30～15：00
場　所　：東京学芸大学　環境教育実践施設（農場）
対　象　：どなたでもご参加ください♪
参加費：中学生以下：300 円高校生以上：500 円
　＊当日参加 OK です。事前申し込みは不要です。
　＊雨天決行です。
　＊昼食は持参でお願いします（天ぷらをするのでおにぎりなど。）。
　＊余裕のある方は 9 時ぐらいに来て準備を手伝ってくださると嬉しいです（＾＾）

←採れたたくさんの野草！この後、天ぷらです。

←お茶も朝からみんなで揉みます～。

その２ 冒険学校『むらまつりキャンプ』　5.3～5.5(２泊３日)

新緑がまぶしい、多摩川源流の小菅村で２泊３日のキャンプを行います。清流での川遊び、焚き火、山菜採り、テント泊、ご飯づくり、五右衛門風呂、お祭りの見学などなど、多くのプログラムを準備しております。
小菅村の「第 29 回多摩源流まつり」も開催されます！夜は、日本一のお松焼きと、山に響きわたる花火大会も見に行きます！ご家族での参加も可能な、ゆったりとしたキャンプですよ～！！

お祭りを手伝いに行きますよ～。

村の先生に山菜について教わります。

日程　：５月３～５日（２泊３日）
場所　：小菅村のいつものキャンプ場
対象　：子どもだけの場合は小学校３年生以上、
　　親子参加の方は幼児も OK ですよ。
宿　泊　：テント泊、ログハウスでの寝袋です。
参加費：食費・宿泊費・保険代・教材費を含みます。
①会員：子ども　￥20,000　非会員 22,000 円
②会員：親子一組　￥30,000　非会員 36,000 円

※先着順で 25 人の定員です、お早めにどうぞ！！
※これ以外の組み合わせの時は、ご相談いたします。
※会員になると、今回から会員料金で参加できます。
＊参加希望者は、ハガキ・もしくはＥ－ｍａｉｌに住所・氏名（ふりがな）・年齢（学年）・性別・電話番号を記入の上、４月 18 日（月）までに事務局までをお申し込みください。

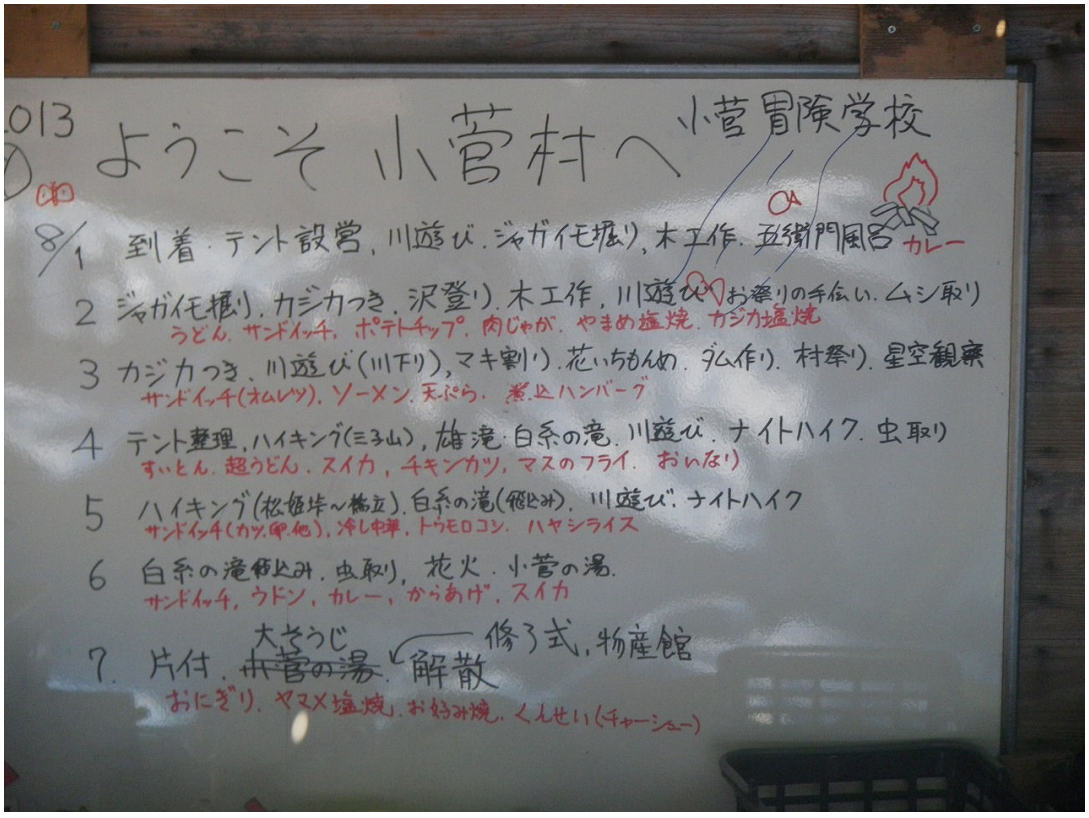
その3 「第 37回環境学習セミナー～山村の豊かさを伝承する」

主　題:山村の豊かさ、生物文化多様性を知り、学び、伝承する
日　時:6月25～26日
場　所:小菅村役場・小菅村中央公民館など
1日目午後:**座談会**
話題提供(予定):　白水智　氏　　中央学院大学、古文書学、秋山郷栄村
　　山下祐介　氏　首都大学東京、農村社会学、青森の村
　　司会:青柳諭　　ミューゼス研究会代表
2日目午前:**講習会～自然と暮らす伝統技能**
※日程と場所は確定。内容は大まかな予定です(現在も検討中です)！！
※この事業は、国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の助成を受けて開催しています。

その 4　冒険学校「こすげ冒険学校」　　8.4～8.10(6 泊 7 日)

小菅村の自然と文化を満喫しながら過ごす 6 泊 7 日の長期キャンプです。川遊びでは飛び込んだり、魚がいっぱいいる淵で泳いだり、魚を捕ったり、思う存分に遊び続けよう！！寒くないように焚き火をしながら、お風呂も沸かしておこう。毎晩星を眺めながら眠くなったら寝てしまおう！！一緒に山の中や村の暮らしを探検する７日間です！

日 程：8 月 4 日（木）～8 月 10 日（水）6 泊 7 日
場　所：小菅村のいつものキャンプ場
宿　泊：テント・ログハウス・野宿などで寝袋
対　象：小学校３年生～中学校３年生　20 名
参加費：会員：￥27 ,000　　非会員：¥29,000
申込み：7 月 9 日（金）まで、先着順です。



今年はどんなプログラムになるか、楽しみですね！？

その５「タイ環境学習キャンプ」　　8.13～8.22(9 泊 10 日)

今回も首都バンコクから車で数時間、ウタイタニー県バンライ郊外の「パンダキャンプ」を拠点に活動を展開します。毎年訪れているファイカケン野生動物保護区は世界遺産であり、観光客はもとより、地元の方でも許可がなければ入れません。貴重な動物を見て、密猟者から保護区を守るレンジャーからの話あります。

少数民族のカレン族の集落訪問、伝統工芸品の製作など体験内容を充実させています。恒例の現地教員とのワークショップも好評となっています。高層ビルの立ち並ぶバンコクと少数民族が暮らす亜熱帯の森に皆さんは何を感じるでしょうか？通訳、ガイドも同行し、現地のラジャバト大学との連携もありますので安心してご参加くださいませ！！

日　程：8/13（土）～22 日（月）

対　象：高校生～一般　（中学生以下は要相談）

参加費：会員 155,000 円　非会員 165,000 円

※航空券と現地での費用が含まれています。

申込み：　6月 17 日（金）締め切りですが、航空券の手配がありますので、まずは事務局までご連絡ください。また、パスポートを持っていない方は、急ぎ用意する必要があります。出発前に事前に参加者ミーティングも行いますのでご安心を！

その６ 冒険学校「やまめキャンプ」「いわなキャンプ」　8.13～8.15

「小菅村をぜひ体験してみませんか？」１泊２日のキャンプをしながら、小菅村の自然と文化を感じるキャンプを行います。親子での参加が可能なキャンプです。大人の方もお子さまとご一緒に、小菅村の自然や文化に触れてみませんか？　ご一緒にキャンプをしながら、野外で食事をつくり、思いっきり遊びながらテントで休みます。「自然」という名の遊び場は最高ですよー。今年も「やまめキャンプ」「いわなキャンプ」と連続して行います。連続で参加して２泊３日のキャンプにすることも可能ですよ～！！

「やまめキャンプ」：8/13～14　１泊２日　「いわなキャンプ」：8/14～15　１泊２日

※連続での２泊３日 OK でゆっくり過ごすこともできます！

場　所：小菅村のいつものキャンプ場　　**宿　泊：テント・ログハウス・野宿など**

対　象：小学校３年生以上は子どものみの参加可能。20 名　　**申込み：　７月９日（金）まで、先着順です。**

参加費：1 泊２日親子での参加：20,000 円(会員)　　**※　連続参加、子どものみの参加は割引きします。**

お子さんと一緒に沢登り

白糸の滝ツボへダイブ！！

参加の申込は事務局まで、E-mail かハガキで、氏名（ふりがな）、住所、電話番号、年齢（学年）をご記入の上、お気軽にお申込ください。お待ちしております～♪

その 7 のびと講座「源流での登山道整備」 7.28～30(2 泊 3 日)

甲武信ヶ岳は、山梨県・埼玉県・長野県の分水嶺となっており、荒川・千曲川・笛吹川の 3 つの河川の水源です。ここから流れる水を飲み水、生活用水として利用しています。私たちの生活にかかわりの深い上流で、本当に美味しい源流の水を味わいながら、登山道での草刈り、整備を行い、ご一緒に汗をかきませんか？

甲武信小屋のご主人・山中徳治さんのお話を交えて、源流と流域のつながりを身をもって感じる講座です。

体力があまりないのでちょっと自信が・・・という方でも、自分のペースで活動できますよ。。

やることはいっぱい～あります。

日　程：7 月 28 日（金）～30（日）2 泊 3 日　　**場　所：甲武信ヶ岳と甲武信小屋の登山道**

宿　泊：甲武信小屋（山小屋に泊まります！）　　**参加費：会員：￥15,000 程（宿泊費・交通費・保険代など）**

対　象：高校生～一般 15 名（中学生以下は要相談）　　**申込み：　7 月 9 日（金）まで、先着順です。**

その 8 「INCH 祭り」～「INCH ライブ 2016」と「のびと講座きのこキャンプ」で楽しくやっちゃいましょう！！ 9.24～25(1 泊か日帰り)

秋の一大イベント**「INCH 祭り」**を開催します！ログハウスのあるキャンプ場で、「INCH ライブ」と「のびと講座 きのこキャンプ」を開催し、秋の味覚を堪能しながら楽しい時を過ごしましょう！

ま、ライブをBGMに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら過ごしませんか！！　音楽を愛する方は楽器持参で、腕に自信のある方もない方もぜひぜひお越しください♪

きのこに興味のある方は、一緒に山に入ってきのこを採りに行きましょう！！

←野外でバーも開催！

■日程 9 月 24 日(土)～25 日(日)　日帰りも OK です。

■会場:山梨県小菅村いつものキャンプ場

■交通機関

※小菅村までの交通は自力になりますので、よろしくお願いします。バスの時間などはご相談ください。

■お申し込み：ライブの当日参加は OK ですが、きのこ採りに参加される方は保険に加入しますので、9 月 19 日（月）までにお申し込みください。

植物と人々の博物館』 vol. 18

①「第 19 回　雑穀栽培講習会」ご案内

古くから栽培されてきたアワ、キビなど雑穀の在来品種の種まきを実習します。教えてくださるのは地元で伝統的な雑穀栽培をしてきた方々です。

雑穀を紹介しながら、種まきをみんなで行います。

●日時　：2016 年 5 月 14 日（土）
13:30～16:30（現地集合･解散です）

●会場　：山梨県北都留郡小菅村　小菅の湯周辺
植物と人々の博物館および雑穀見本園

●内容：雑穀栽培実技講習　栽培概要の解説
中川智氏（雑穀栽培後術顧問）
岡部良雄氏（雑穀栽培後術顧問）
雑穀の種播き作業をしながら、畑作に関わる伝統的な智恵のお話を伺います。

●参加費　：1,000 円程度の予定

●昼食は小菅の湯で食べましょう。

●締め切り　：4 月 30 日までに事務局までご連絡。

②源流祭りにおける展示の解説・講座

5 月 4 日は小菅村の「第 29 回多摩源流まつり」を開催します。当日、植物と人々の博物館（小菅村中央公民館）では、木俣美樹男先生による、縁側講座（日本塾講座）を開催し、展示の解説もしますので、ぜひぜひお越しください。
担当：木俣美樹男（植物と人々の博物館研究員）
※当日の博物館スタッフを募集中です～！！

③「第 38 回環境学習セミナー」

「第 38 回環境学習セミナー」を 9 月に予定しています。
主題：自然と暮らす知恵と技能を学ぶ。山村の生活技能・環境学習（冒険学校）
日時：9 月 3 日（土）午後～4 日（日）
場所：小菅村中央公民館、いつものキャンプ場など

座談会
話題提供：　佐々木豊志氏（くりこま高原自然学校）
加藤源久氏（小菅村在住）
木下善晴氏（小菅村在住）
司会：中込卓男　　自然文化誌研究会代表理事

講習会　小永田神楽見学、伝統技能実技講習など

④「雑穀街道」の取り組み

雑穀街道連携協議会の設置へ向けて
趣旨：雑穀や野菜などの在来品種に関わる生物文化多様性を保全しながら、地域資源を生かした山村の美しい暮らしを維持、振興を図るとともに、伝統的生活文化に関わる知識や技能を都市民に普及啓発するための連携協議会の設置を考えています。
呼びかけ：ミューゼス研究会（エコミュージアム日本村・トランジション小菅）

『藤農便り』 第 4 号

農業生産法人　藤野倶楽部　　宮本　透（自然文化誌研究会）

早いもので藤野に移住して１年になります。藤野で過ごす初めての冬、部屋の中が凍る厳しい寒さは身にこたえましたが、相変わらす刺激的で楽しいイベントの連続で風邪を引くヒマもありませんでした。

・ビオ市

昨年の春からふじのアートヴィレッジで第１･３火曜日に開催されていた「野山で＊あさカフェ」ですが、トランジション藤野の土屋さんや飯野さんが運営スタッフの中心となって地元農家に呼びかけ、朝採り野菜市に発展したのがビオ市です。記念すべき第１回は昨年１２月１５日、１０軒の農家が参加して開かれました。そのうち６軒がつくいやさいのメンバーで、各農家は収穫物や加工品を軽トラの荷台で販売、早朝８時からの開始にもかかわらずたくさんのお客様でにぎわいました。

回を重ねるごとに参加農家や食べ物販売の出店が増え、お客様が殺到した２月２日はアートヴィレッジの駐車場に入りきれない車で周辺の道路が渋滞、パトカーが出動する騒ぎになりました。このため２月１６日からは、会場を駐車場の広い百笑の台所に移して開催されています。藤野倶楽部は安心農園の津久井在来大豆、上野原市秋山特産長カブの切干しと漬物、麹や甘酒などを販売していますが好評です。

採れたて新鮮な野菜や手作りの農産加工品、藤野で栽培された雑穀など街のスーパーでは手に入りにくい安心安全な食べ物を、消費者が生産者から直接手に入れることのできるビオ市はお客様にとって貴重な場です。生産者にとっても消費者の生の声を聞くことができ、仲間の農家との情報交換の場になる大切なものです。藤野での２年目、津久井の先輩農家からたくさんの事を学んでおいしい野菜を生産したいと思います。雑穀街道で秋に雑穀を収穫したら、ビオ市で真っ先に販売いたします。

百笑の台所・結びの家でのビオ市

・WWOOF その２

２号でタイ人ウーファーや WWOOF ジャパンへのホスト登録申請について報告しました。昨年 9 月に登録が認められ、日本のみならず外国からのウーファーが途切れることなく藤野倶楽部を訪ねるようになりました。

１月１６日にやってきたのは台湾中興大学の３人のお嬢さんたちでした。中興大学は台北帝国大学農学部が発祥の国立大学で、彼女たちは園芸を学んでいます。農学専門のウーファーで、佐野川の茶畑管理や安心農園の土作りを担ってもらおうと作業計画を考えていました。日曜日のレストランの仕事を終え、翌日から農作業の予定でしたが１８日の朝は一面の銀世界でした。農作業は雪かきに代わり、幹線道路から駐車場にある電気自動車用充電スタンドまでの通路を確保しました。２年生の２人は雪を見るのが初めてだそうで休憩時間に雪だるまを作って大はしゃぎ、記念写真を撮りました。滞在２週間の仕事は無形の家や百笑の台所の雪かきばかり、農作業はまつばに出荷するキャベツの収穫と麹・甘酒作りだけだったのが少し残念でした。

WWOOF 担当の役得で食事を一緒に作り､余暇にはアニメオタクの彼女たちに私の膨大なコレクションを

提供、のうりんのコミックスやもやしもんの DVD 鑑賞等で交流を深めました。高校教員だったその昔、とある男子生徒から「マンガ読んで JK とトークするだけで、給料貰える仕事なんて最高じゃん」と言われたことがありましたが､WWOOF 担当はまさに最高の仕事かもしれません。休日には富士山へドライブもしました。山中湖や忍野八海を散策、河口湖で郷土料理のほうとうを食べ遊覧船やロープウェイに乗ったこと、ウーファーとの楽しい思い出がまた１つ増えました。にぎやかな彼女たちが去った日の夜、静かなフロアーで「台湾エリートの彼女たちが偉くなったら、孫に『おじいちゃんはあの人が学生の時、藤野倶楽部で面倒みて、一緒に富士山に旅行もしたのだよ』と自慢できますかね」と話して、社長に笑われました。

台湾からのウーファー

・麹･味噌作りワークショップ

今はなき学大職業科には食品加工という講義がありました。そこで麹の製造法を習得し、探検部の活動に役立てました。小金井祭の甘酒屋、国分寺にある日本の名水１００選「真姿の池」の水で仕込んだどぶろく、春の農場の恒例行事だったやぼ耕作団との味噌作り・・・、今も色あせない青春時代の思い出の数々です。

教員になってからは、養護学校の作業学習で知恵遅れの子どもたちとコタツで麹を作り、味噌を仕込みました。定温器など無く、温度計とにらめっこしながらの作業でしたが、おかげで失敗しないコツを身につけました。農業高校に異動後も吉田島農林高校では１年だけでしたが食品製造の授業を受け持ち、実習では生徒たちと学校に泊り込んで麹室で汗を流し、１ｔの味噌を製造･販売したものです。

そのようなわけで、麹作りは私の数少ない特技の一つです。正月明けに社長が定温器を用意してくださり、新メニューの甘酒用の麹作りを任されるようになりました。藤野倶楽部では安心農園で津久井在来大豆を栽培、役員の唐沢さんがワークショップで味噌作りをしています。唐沢さんと相談し、今年は麹作りと連続ワークショップを企画しました。藤野倶楽部HP やトランジション藤野のよろづ屋で参加者を募集し、麹作りに 10 名、味噌作りに 24 名が参加してくださいました。

麹作りは私が担当し、昔の教材を元に資料を作成、道具をそろえて準備しました。平塚農業高校を解雇されてからは人に教える仕事が縁遠くなっていたので、とても緊張しました。麹に仕込む米の季節毎の浸漬時間、吸水した米の十分な水切り、蒸し加減、品温管理、甘酒の作り方等、私の経験から得たコツをお話しさせていただきましたが、参加者の皆さんは熱心に聞いてくださいました。唐沢さん担当の味噌作りと連続で参加された方も多く、秋の味噌の出来上がりが楽しみです。

麹作りワークショップ

＜お知らせ＞

藤野倶楽部は今年からINCH 賛助会員です。INCH 会員への特典として、ナマステ今号を持参された方には「百笑の台所」の食事料金を 10%割引いたします。アクセスは藤野倶楽部の HP をご覧ください。

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.7 その 6

『冒険探検粉塵記　　第 6 話　二言で世界を渡る法』　　駄作者　　文福洞先斗

冒険探検で世界各地あるいは日本各地を旅行して回るには、その土地、民族の言葉あるいは方言をできる限り覚えなくてはなりません。でも、ポンちゃんは言葉の習得が苦手で、まことに「困ったちゃん」です。人類学者たちは、調査地に住み込んで、住民の後を追いかけながら、まず地方語を覚えます。植物学者は中尾佐助先生がおっしゃったように、観察、採集が主要な仕事ですから、あまり定住せずに、旅行して回りますので、言語習得はおぼつかなくても何とかします。でも住民の暮らし振りには深入りできませんので、住民も含めてそのフィールドを統合的に理解するには現地語の習得なしには、あまりにも不足です。なぜ、習得が苦手かと些末に及んで原因追及を試みました。

１）人見知りと無口

今から思い出せば、ポンちゃんは子どものころから人見知りが強く、恥ずかしがり、無口で、自らはほとんど話しませんでした。いつまでもいじけていてはいけない、無口を返上しようと思い、高校生の時には意を決して生徒会役員に立候補してみましたが、あっさりと落選しました。このままでは悔しいので、次の機会には敗者復活で懲りずにまた立候補しました。1600 人ほどの生徒や先生の前で演説するのはとても緊張します。そこで、おそまつ君の漫画を演説原稿に張り付けて、緊張をほぐしました。「また性懲りもなく立候補した」などと言ったら今度は結構受けて、先輩女子高生から「かわいい」と大好評で、高得票で当選しました。

２）耳の発達不足

子どもの頃、まともな音楽を聴く機会がなく、父が珍しくプレーヤーとレコードを買ってくれたので喜んだ束の間、「私のラヴァさん酋長の娘」なんていう曲が流れて、がっかりしました。中学生の時には、音楽のペーパーテストは満点でしたが、通信簿で 5 がついたのは 1 回しかありませんでした。悔しいというよりも、自分が上手に歌えないのはつまらないです。裕福なうちの同級生たちは、交響曲だの、ビートルズだの聞いていました。当時、流行っていたのは、中尾ミエの「可愛いベイビー」など・・・。子どものときから良い曲を聴いて、耳鳴らさないと、だめだったのですね。ジャイアンのように、ちゃんと歌っているつもりですが、どうも音程が不安定です。しかし、大人になってからも、自動車を運転しながら聞くのは、昼間は荒井由実、夜は中島みゆきとかの難しい歌で、車中で一緒に歌ってはみるのですが、自分で聞いていても、だいぶ外れています。

探検部員だった K 君の結婚式に出て、酔ったうえで無理やり歌わされた際には、実に申し訳ないことをしました。ジャイアンのまねがあまりに上手だったので、学大の音楽科には生徒を入れない方が良いとまで褒められました。音楽科の諸先生方に申し訳なかったです。そういえば、高名な声楽の先生と懇親会の幹事をしたときは、体中が縮みあがりました。歌を歌わせられるのは、真っ平にご免だったので、落語を暗記して演じ、難を逃れました。

３）興味に我を失い、集中しない

本当は言葉の習得が苦手という以上に、同じことを繰り返すことが嫌で、怠け者なんだと思います。ちなみに親友は毎日、NHK ラジオの英語プログラムを何はさておき聞いています。テキスト代は千円程度です。ところがポンちゃんは、英語は中学校から習い、仏語は大学教養部で成績「優」、独語はこの親友に通信教育で習って、博士論文の試験まで受けた。峨眉山調査計画のために中国語は王先生から、中央アジア調査のためにロシア語はモスクワ大学に留学した東京外国語大学の院生から、ラジャバト・プラナコン大学大学院で集中講義するためにタイ語は留学生の A さんから、インド亜大陸の旅行記を書こうとヒンディー語も東京外国語大学の

院生 K さんから習いました。ラジオもロシア語などは、初めのうちは少し聞きました。言葉は、毎日、反復練習をし、現地の人々との会話で実際に使用しないと、習得できません。しかし、お恥ずかしながら、習得に専念せず、興味を好きなことばかりにかまけて、言語習得に集中せずに、今さら、反省してもダメなのですが、何語をもものにしていないのです。それでも生きているうちに、サンスクリットをかじりたいと辞書は買いました。ちなみにラテン語はじめたくさんの辞書をもっています。辞書さえあれば、要約くらいは何とか読むようにします。

４）日本人の舶来尊重

日本人が多数で、国際会議などをすると、「発音が悪い、綴りが違っている」など、事細かに批評されるのです。日本人に小うるさく言われるのが嫌で、口をつぐんでしまいました。実際には、ちょっとくらい違っていても、黙っていてまったく意思疎通できないより、ジャングリッシュでちっとも構わないと思いますので、口を開けることです。例えば、オーストラリア人だって、today を“ツダイ”というので、どうして「死」なければいけないのかとびっくりしました。ウズベク人は girl を“ギョル”というので、どうして「魚」なのか、これまたびっくりしました。中学の英語の教科書 “Jack & Betty”では can は“カン”と聞こえていたのに、教科書がすぐに変わって“キャン”と聞こえ、しばらく切り替え困難でした。

さて、いくつも言い訳を並べましたが、ポンちゃんはとても恥ずかしながら、つたない英語で世の中をやり過ごしました。長らくインドにいたのですが、多言語のこの地域では、ヒンディー語、ウルドゥー語、ネパール語、シェルパ語、カンナダ語など、…何もかも片言だけで、結局はずぼらして、インド人同士でも共通に通じる英語だけで済ませてしまいました。インド亜大陸を旅行していたら、ヒングリシュの早口で語尾の“r“が強調されるので、聞き取りにくかったのですが、慣れればお互いにおおよその意思は通じます。

しかし、読者の皆様は大人になってから、どうかまじめに多言語の習得に努めてください。子どものときは、まず日本語をよく覚え、日本語で考えることができるようにしてから、外国語を学んだほうが良いかと思います。幼児から英語を学ぶのには疑問があります。私たちは日本人ですから、母語を大事にしたいです。ポンちゃんの意見では説得力が弱いでしょうが、多言語を操るかの親友も同意見です。いくら英語が上手にできても、総理大臣には国連では日本語で演説していただきたいです。

さて、本題は最後になりましたが、二言で世界を渡る法を述べます。それは、「こんにちは」と「ありがとう」です。どの民族言語においても、お付き合いはこの 2 語で終始します。この二言を言って、ちょっとニコリとすれば、初対面でも緊張が解けます。ずぼらなポンちゃんは、たくさんの言語でこの二言だけは言えます。これで、ちょっと大変だったけれども、何とか楽しく人生を渡って来たんです。本誌『ナマステ』はインドやネパールで大方通じる「こんにちは」という最初の挨拶です。暖かくなったら、また旅に出かけましょう。

写真左はトットネスの Dr.バイク、右はエデン・プロジェクト

○ 今後の活動予定のお知らせ（2016 年春～夏）

4/29	**のびと講座『野草の天ぷらとお茶つみの会』 @東京学芸大学 環境教育研究センター**
5/3-5	**冒険学校『むらまつりキャンプ』『植物と人々の博物館 展示・縁側講座』 @小菅村**
5/14	**『第 19 回雑穀栽培講習会～雑穀の種まき』 @小菅村**
6/25-26	**『第 37 回環境学習セミナー～山村の豊かさ、生物文化多様性を知り、学び、伝承する』 @小菅村**
7/28-30	**のびと講座『源流での登山道整備』 @甲武信ヶ岳・甲武信小屋 2 泊 3 日**
8/4-10	**冒険学校『こすげ冒険学校』 @小菅村 6 泊 7 日**
8/13-15	**冒険学校『やまめキャンプ』『いわなキャンプ』 @小菅村 1 泊 2 日 or2 泊 3 日**
8/13-22	**のびと講座『タイ環境学習キャンプ』 @タイ 9 泊 10 日**
9/3-4	**『第 38 回環境学習セミナー～自然と暮らす知恵と技能を学ぶ。山村の生活技能・環境学習』 @小菅村**
9/24-25	**『INCH まつり』～INCH ライブときのこ採り @小菅村 日帰りでも 1 泊でも**

○ 事務局より

●茨城の佐々木さんの家に遊びに行ってきました。最近の旅行は、諸塚村にしても茨城にしても、仲間のいるところへ行くようになってます。次は、岐阜か、新潟か、長崎の予定で～す。　クロ

●今年の冬も無事に過ごせました。薪ストーブさいこう～。はるこ

○ 事務局の麗しき日々

・ごみさんは、日本百名山を登ることを生きがいとしているもよう。
・ログビルダーの若狭さんは、今年も青梅マラソンに出場したもよう。
・茨城の佐々木さんは猫たちを溺愛しながら生きているもよう。
・翔くんの告白「僕は見栄で大型バイクに乗っていたよ・・・」（続）
・はるちゃんが日本酒デビューを果たしたもよう。
・一方、ひっしーは、「禁酒」の誓約書を書いたもよう。

○ 自然文化誌研究会　一緒に活動しませんか？

略称 INCH（インチ）。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、30 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座（のびと研修会）』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額（1～12 月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正 会 員：10,000 円　一般会員：5,000 円
学生会員：3,000 円　賛助会員(個人・団体)：10,000 円
家族会員：6,000 円　特別維持会員：100,000 円
植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円
小菅村特別会員：1 口 1,000 円から
成合基金（冒険探検基金）：「成合基金」と記載してください。
郵便振替口座 ： 00100-2-665768
口座名 ：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

ナマステ 123 号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌
＜発行日＞2016 年 3 月 10 日
＜編 集＞自然文化誌研究会 事務局
＜発 行＞特定非営利活動法人
自 然 文 化 誌 研 究 会
The Institute of Natural and Cultural History

＜事務局＞〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2
TEL ：0428-87-0165・090-3334-5328（事務局黒澤）
E-mail： npo-inch@wine.plala.or.jp
H P： http://www2.plala.or.jp/npo-inch/
事務局ブログ： http://npoinch.naturum.ne.jp/

次回「ナマステ 124 号は 5 月中旬の発行を予定しています。お楽しみに！！